

77 いわみずちちぶふだしよかんのんもくぞう 岩水秩父札所観音木像



一部

指 定	市有形文化財	昭和55年 3 月31日
所在地	平 林	
所有者	岩 水 区	



岩水公民館に数多くの仏像が安置されている。この仏像は旧阿弥陀堂に合祀されていた。公民館をこの堂跡に建てた際、堂内の仏像は須弥壇とともに当時のままの状態で館内に残された。

仏像は、長さ4.55mの須弥壇中央に阿弥陀仏、その左右に合わせて34体の木像秩父観音像が合祀されている。この観音像が文化財に指定されている。

観音像の台座正面に札所名を朱漆で記し、側面に寄進者の住所・人名が記してある。第一番には、特別に御詠歌とともに「施主・当所・義右衛門」とあり、岩水の義右衛門が勧進元となって、当地方の信者から、一体ずつ観音像の寄進を募り、勧請したものである。

寄進者の住所は、岩水・南相木三川・平林・曾原・宿岩・市ノ沢・田ノ口・入沢・小海・四ツ谷の10ヵ村にわたっている。寄進者は1名記入のものや、連名のもの、村名、講名等多様である。

合祀の年代は、背面墨書きからみて、安永3年（1774）から同4年（1775）とみられる。旧阿弥陀堂のおこりは、堂横の念仏供養塔の年紀や、歴代堂守りの墓石の年代等からみて、約300年前に創建されたものと推定されている。

観音堂合祀のころ、秩父観音巡礼は、佐久地方の人々によって盛んに行われ、秩父巡礼の功德にあずかることを願って、ここに合祀が行われたものである。